

支え愛プラン通信

第3期神奈川区地域福祉保健計画

地域の皆様（福祉保健に関する当事者や支援者の方々）の声を聞かせていただいています

かながわ支え愛プラン(第3期神奈川区地域福祉保健計画)は、今年度が5年計画の3年目となるため、中間振り返りを行っています。これまでに行った福祉保健に関する取組の振り返りと地域の皆様へのインタビュー等を通して計画の進捗状況を確認し、平成32年度までの2年間でさらに力を入れて取り組むことを明らかにして、計画の推進につなげていきます。

インタビューやアンケートでは、地域の障害者分野11団体、子ども分野8団体、高齢者分野5団体、その他5団体の合計29団体の皆様にお話を伺いました。

その中で、**地域で活動されている方々の「皆が暮らしやすい地域にしたい」という想いや、障害当事者の方々の「こんな地域になってほしい」という想いなどを沢山聞かせていただきました。**ご協力いただいた皆様に深く感謝いたします。



お寄せいただいた声



障害への理解

障害への理解を深めるには、同じ空間・同じ時間を共有することが大事。講座などを行って意図して交流や啓発をするのではなく、日常生活の中で自然な形で交流できれば理解が広がり、障害者がいることが「あたりまえ」になるのではないかと。



障害がある人

知的障害がある子どもは、成人しても自分のことを自分で出来るようになる訳ではない。ただ、親も年を重ねる中でいずれは本人の面倒を見られない時が訪れるため、本人が困った時に頼ったり、相談できたりする場所が必要だと感じている。



障害がある人の家族

身体障害のことはわかるが、知的障害のことはわからない人もいます。また、精神障害は目に見えないので理解するのが難しい。周囲に理解してくれる人が増えて欲しい。



障害がある人



顔が見える関係づくり



福祉施設職員

孤立し、課題を抱えている人ほど、情報が伝わりにくいと思う。身近な地域の中で住民同士の顔が見える関係を作り、孤立しがちな人もつながりを作ることが、遠回りだが有効な解決方法だと思う。



障害がある人の家族

地域の行事などは知っている人から声をかけてもらえれば行ける。「来てみて!」と誘ってもらえたり、行った時に迎え入れてくれる人がいることが、外に出るきっかけになる。

子どもの居場所



子どもの居場所の担い手

地域ごとにいろいろな形の子どもの居場所づくりが進んでいるけれど、さらに「ひとりぼっちの子ども」のいない地域づくりについて地域の中で話し合いをしていきたい。



障害がある人の家族

できれば自宅のすぐ近くで、知的障害がある子どもが一人でも遊びに行ける居場所が増えて欲しい。



地域活動への参加



福祉施設職員

男性の中には地域に出ることが苦手な人も多い。趣味の会など、好きなことをきっかけにして地域活動に関われるようにできるとつながりが広がると思う。



自治会関係役員

地域活動の担い手が不足する中で、地域の枠を越えて協力し合う必要があると思う。そのため、町内会を越えて協力しあっている。

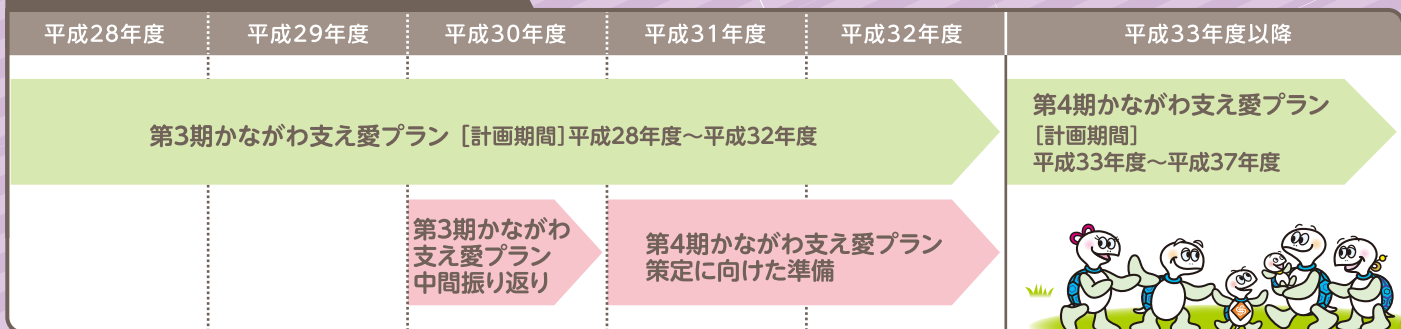
皆様からいただいたご意見一つ一つに、かながわ支え愛プランの基本理念である「誰もが住み慣れた地域で、安心して、心豊かに、いきいきと暮らせるまちをつくろう」の実現に必要な要素が詰まっていると感じました。

伺ったお話をもとに計画の進捗状況を振り返り、課題を明らかにすることで、誰もが暮らしやすい地域になるように皆様と一緒に取り組んでまいります。



神奈川県マスコットキャラクター
かめ太郎

かながわ支え愛プランのスケジュール



神奈川県福祉保健センター福祉保健課

横浜市神奈川区広台太田町3-8
TEL045-411-7136 FAX045-316-7877

詳細については

かながわ支え愛プラン

検索

社会福祉法人
横浜市神奈川区社会福祉協議会

横浜市神奈川区反町1-8-4はーと友神奈川1F
TEL045-311-2014 FAX045-313-2420

平成30年10月発行